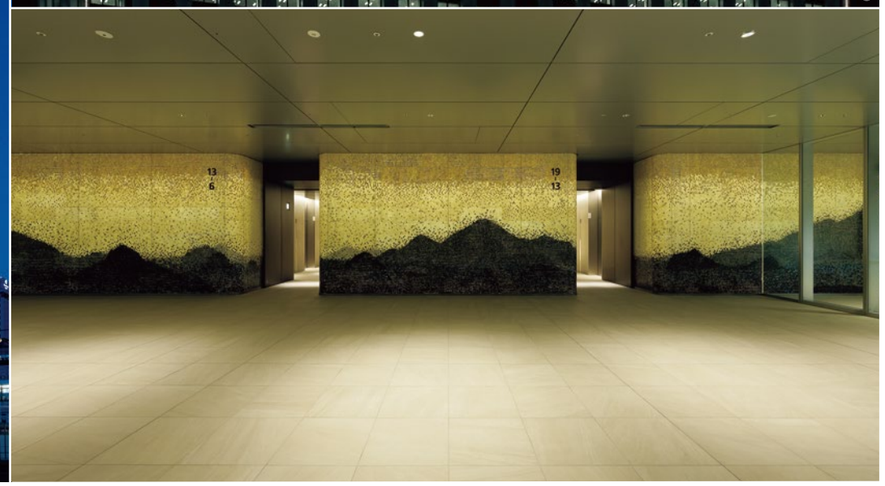


（左）低層部ではセットバックによる公開空地の植栽を照らし、中層部は軒下へのライトアップにより横基調の意匠を強調。6〜19階の高層部は縦の光で上昇感が与えられている
（右上）①フィン中央を赤くした郵便をイメージした照明演出（毎月1日・毎月末）　②水の都ひろしまをモチーフとして水面に映る波紋を表現したフィンの照明演出（月・水・金）

（右下）2階エントランスでは、内照式のクラフトウォールによる光のゆらぎが瀬戸内海の多島美の風景を印象的に演出。壁面の視認性向上のため、天井面の存在感を抑えつつ機能照度を確保する小口径の「SmartArchiグレアレスダウンライト」により全体を構成

広島ＪＰビルディング

「広島らしさ」が追求された広島駅南口のランドマーク

旧広島東郵便局の跡地に、複合オフィスビル「広島ＪＰビルディング」が2022年8月に竣工した。隣接する広島駅南口では、JR広島駅の建替え（2025年春開業予定）や、路面電車の高架化による新駅ビル2階への乗り入れなどの再整備が進む。当ビルは設計当初から広島駅南口広場と一体的な景観形成をめざし、南口広場側をセットバックさせて都市に開かれた公開空地を整備するとともに、ペデストリアンデッキにより、将来的にはJR広島駅と直結することで、歩行者ネットワークによる回遊性とにぎわい創出が図られている。

このデッキは2階レベルでビルに接続し、雨天でも快適にオフィスエントランスにアクセスできるように計画された。ここでは、切手サイズの手漉きの和紙を貼り合わせ、瀬戸内海の多島美を表現した内照式のクラフトウォールを配置。また、高さ90mのビル外装照明計画では、頂部フィンにアーキラインRGBW、6階から頂部までは建物四隅に単色のアーキラインを組み込むことで季節やイベントに合わせて「広島らしさ」を表す動きのあるライトアップを実施。さらに、自走式駐車場となっている中層の3〜5階では、都市景観に配慮して壁面緑化が採用され、軒下へのライトアップにより横基調の意匠が際立っている。

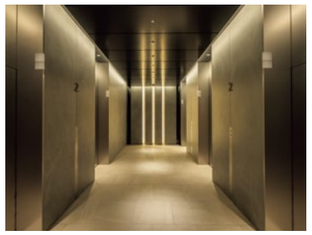
広島ＪＰビルディング

所　在　地／広島県広島市南区松原町
事　業　主／日本郵便株式会社
設 計 監 理／日本郵政株式会社一級建築士事務所
実施設計・監理協力／株式会社久米設計
デザイン協力／UDS株式会社・株式会社HIBIKI（食堂、エントランス）
施　　工／鹿島建設株式会社 中国支店
竣　　工／2022年8月
延 床 面 積／約44,200m²

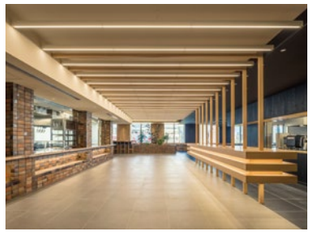
公開空地では軒下を照射して照度を確保し、ベンチの間接照明が滞留を促す

発光面の輝度を抑えながら広い光で足元を照らす「SmartArchiブロードウォッシャー」

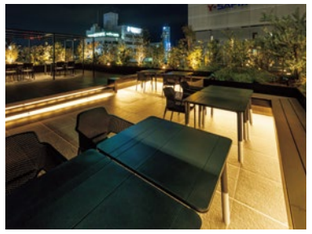
7〜19階のテナントオフィスに採用されたシステム天井用照明器具



毛利元就が提唱した「三本の矢」をモチーフとしたエレベータホール



ライン照明が印象的な6階テナント専用食堂
© 株式会社川澄・小林研二写真事務所



落ち着いた雰囲気を醸す6階カフェテリア

合意形成に役立った環境計画支援VRで作成したシミュレーション

広島駅南口の再整備図

配置イメージ図（2階レベル）

主な提供設備

- LEDシステム天井用照明器具
- 一体型LEDベースライト
- LEDダウンライト
- LEDスポットライト
- LED建築化照明器具
- LEDライトアップ用照明器具
- LED特注フィン照明器具

照明演出の動画をご覧いただけます